

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700063		
法人名	生月漁業協同組合		
事業所名	JFいきつき グループホーム ふれあい		
所在地	長崎県平戸市生月町里免652番地24		
自己評価作成日	令和6年8月9日	評価結果市町村受理日	令和6年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活施設でありながらも 家庭生活の延長として、各個人のペースに合わせたサービスが提供できる事を1番の目標にしています。 具体的には「施設の日課やルールになるだけ縛られない様に、起床・就寝や食事の時間帯に幅を持たせる」「食べたい物を食べることができる」「会いたい人に会える」「屋外に出て気分転換ができる」「家事手伝い等、やれることを行う事ができる」等、家庭生活上で「普通」であることが施設生活でも「普通」である様に努力しています。 また(これまでも行ってきた事です)、介護保険にて今年度から「認知症チームケア」が加算で評価されるようになった事もあり、これまで以上に【BPSDに対するチームケア】に力を入れて取り組んでいます。
「不満や苦情等」は挙げて頂くように、日頃から、入居者やご家族等へ声かけを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

超高齢社会を迎え、若者の流出による少子高齢化等様々な問題を抱えている生月島で数少ないグループホームとして漁業協同組合を母体とし運営されている。地域住民が慣れ親しんだ土地で家庭の延長と感じられる生活、その方の嗜好に沿った食事の提供、こまめな外出支援等、家族支援も含め入居者個別の支援を検討し、チームケアに取り組まれている。パート職員も含めた職員に対する福利厚生面を充実し、働きやすい環境が職員の定着に繋がっている。管理者はリーダーシップを発揮し、母体法人との報告・連絡・相談、職員のスキルアップ、介護保険等各種制度に関する行政との連携・対応等、一手に担いながら入居者、職員、母体法人間をマネジメントしている。人口減少や、高齢化の進展等、様々な課題がある中で、住み慣れたこの地域で生活を継続できるよう支援している姿から、今後も入居者支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護職員(○;できている) ・毎月のユニット会議で、理念を唱和し共有している ・ユニット内に理念を掲示している ・毎月の広報誌に理念を掲載している 管理者(○) ・理念を、玄関ポーチの目にしやすい場所に掲示している	介護職員1(○;できている) 介護職員2(△;あまりできていない) ・ユニット内2か所に理念を掲示しているが、目につきにくい為、職員全員は把握していないと思う 管理者(○) ・(くじらユニットに同じ)	開設時の理念に沿い、ユニット毎に理念を作成して、玄関、各ユニットに掲示すると共に、広報誌にも記載し職員や家族とも共有を図っている。管理者は職員の能力を見極めながら必要な助言を行い、職員同士で気づいた点はその都度話し合い共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護職員(△;あまりできていない) ・コロナ禍で、イベント参加や地域交流の機会が減少している 管理者(△)～介護職員に同じ ・地域の習慣的な行事の訪問は(もぐら叩き、百万遍、屋払等)は受けている ・地域の広報誌類を配達していただいている	介護職員1(△) ・コロナ禍以降、ボランティア訪問が減 介護職員2(×;できていない) ・コロナ禍以降、紙芝居等のボランティア交流が無くなった 管理者(△) ・(くじらユニットに同じ)	町内会に母体の漁業協同組合を經由し加入しており、地域の伝統行事等にも参加するなど地域と交流する機会は多い。入居申込みの相談等、社会福祉協議会のケアマネジャー等と情報を共有し、地域の高齢者に向けてアドバイスを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護職員(？;わからない) 管理者+ケアマネ(○) ・介護支援専門員を兼務の管理者が、「入居相談・入居申込・居宅事業所との連絡」等を通じ、相談者や地域の方に「認知症の人の理解や支援の方法」を発信している ・入居者家族にも、入居後も同様に発信を続け、相談を受けている	介護職員1(△) ・介護職員としては、項目にあるような事を行う機会が少ない 介護職員2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護職員(？) 管理者+ケアマネ(○) ・グループホーム内で起こっている事は、良い事も悪い事もほぼ全て「運営推進会議」で報告し、得られた意見やアドバイスは介護職員に伝えてサービスの向上に活かすようにしている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	運営推進会議は2か月毎に開催し、地区長、ホーム元事務長、市介護保険班職員、母体組合長、総務課長、ホーム管理者、漁協・地域婦人部等が構成メンバーとなっている。会議では入退所報告、ユニット毎の事故報告、行事報告の他、コロナ対策、災害対策等も含め各議案毎に質疑応答を行い、意見や助言を得ている。外部評価機関の選定及び評価結果に関しても家族へ報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護職員(?) 管理者+ケアマネ(○) ・日頃から、何かあればすぐに市担当者へ報告相談している ・運営推進会議の際に、会議とは別に市担当者と話す機会を作っている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	行政関係書類の提出は支所経由で行っている。マイナンバーカードの作成に関し、本所の担当者がホームに来所し、家族も含め説明を受け作成に至る等、連携を図っている。困難事例に関し、地域包括支援センターとの情報交換や、ホームを退所した後の方向性につき、社会福祉協議会のケアマネージャーと情報交換する等、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護職員(△) ・昼休憩等で職員が1人になる際、「当ユニット空間」と「隣ユニットとの共有空間」の境にある引き戸を、一時的に施錠する事がある 管理者+ケアマネ(△) ・管理者が事務所不在の際には、BPSDによる徘徊の程度を見ながら、勤務体制も考慮し玄関を施錠する事がある	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・まんぼうユニットについては、現在落ち着いている	身体拘束適正化・虐待防止の指針を整備している。毎月、各ユニットの拘束・虐待ゼロ委員会を中心にホームの実践状況を話し合い、ユニット会議録に残している。ヒヤリハットに関し、職員が記入しやすい様式を作成し、全職員で事例検討を行いながら意識づけを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員(○) ・定期的に勉強会を行い、理解を深め防止に努めている 管理者+ケアマネ(○) ・年1回、虐待防止指針の読み合わせを行っている ・毎月のユニット会議で毎回、虐待について有無を検討してもらっている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員(?) 管理者+ケアマネ(○) ・管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識があり必要時には関係者と話をすることがあるが、介護職員については未だ	介護職員1(○) 介護職員2(×) ・介護職員は知識なく、理解できてない 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・契約に関しては「重要事項説明書」とともに契約書の読み合わせを行い、疑問点等の有無等についても確認説明を十分に行ったうえで契約をする様にしている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護職員(○) 管理者(○) ・日頃から、入居者および入居者家族等に対し「意見や要望」があれば管理者、介護職員、漁協職員の誰にでも相談下さい」と声をかけている ・「外部評価資料」は玄関に設置し、誰でも閲覧できるようにしている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・家族面会の際、入居者情報説明をしたり、家族要望を伺ったりする様にしている 管理者(○) ・(くじらユニットに同じ)	職員は日々の支援の中で把握した入居者の意見や、家族面会時における要望等は、申送りノート、介護記録に残し、職員間で共有を図ると共に、毎月開催する職員会議に諮り、対応方法等を検討している。外部評価受審に関し重要事項として家族に説明している。また、評価結果は運営推進会議でも報告している。	重要事項説明書において家族等が相談・苦情などを表せる窓口を明記し説明しているが、外部の窓口の記載はない。市町村窓口・外部相談機関等、外部の相談窓口も明記して家族へ説明することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護職員(△) ・意見や提案を聞く「定期的な機会」が設けられていない 管理者(△) ・管理者は、職員からの意見や相談・提案をいつでも受ける体制をとっている ・また、理に適い反映可能なものは、代表者報告の上、早急に反映する様にしている	介護職員1, 2(○) 管理者(△) ・(くじらユニットに同じ)	毎月のケア会議を通じて職員意見を聴取すると共に、日々の業務においても管理者が率先して職員へ声掛けし提案等を聞くようにしている。管理者は職員のレベル差が支援の質に影響すると捉え、ユニット会議等を通じ職員それぞれがフォロー及び協力し合える環境整備に努め、質の向上を図っている。ハラスメント窓口を管理者兼ケアマネジャーが担当し、職員に随時確認するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員(△) 管理者(△) ・代表者は、管理者からの「労基等に係る報告、相談事項」にはよく対応して頂いているが、代表者も現場に足を運び、現状を実際に観て(労基以外の事についても)管理者が「なぜそう判断しているのか」をもう少し深く理解して欲しい	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・「やりがい、各自の向上心を持って働く」事のできていない職員の存在が見受けられる 管理者(△) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員(△) ・外部研修の機会が、もっと多くあって欲しい 管理者(△) ・代表者も現場に足を運び、現状を実際に観て、管理者が「なぜそう判断しているのか」をもう少し深く理解し、部外の研修の必要性について代表者からも発信して欲しい	介護職員1, 2(○) 管理者(△) ・(くじらユニットに同じ)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員(×; できていない) 管理者(×) ・代表者自身が、福祉の運営についてよく勉強し「職員各個人の力量や努力、またその繋がりがサービスを形作っている」事を理解して経営を行って欲しい	介護職員1(△) ・他施設との交流等はほぼない 介護職員2(×) ・交流もなく外部研修もない 管理者(×) ・(くじらユニットに同じ)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・「入居申込み」の段階から、家族や担当ケアマネ等と密に連絡を取り、サービス提供に当たっては、入居後約2～4週間を「特別期間」として、対応を綿密にし、入居者が安心して生活する事ができるように取り組んでいる	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・「入居申込み」の段階から、家族に対しても「不安や要望等についての聞き取り」「地域福祉資源についての相談を受ける」等、家族も安心して暮らして行くことができるような取り組みを行っている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・入居検討時から、介護職員と密に連絡を取り「必要な支援」「必要なケア」について細かく話し合いをしている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・ 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員(○) ・職員と一緒に「洗濯・掃除・ゴミ捨て・カーテン開閉・カレンダーめくり」等、個人の残存能力に合わせ行っている 管理者+ケアマネ(○) ・「職員も入居者コミュニティの一員」との考えを持つように、職員へお願いしている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・「できる事は自身でして頂く」対応が可能な入居者は半数(重度化) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護職員(○) ・家族との絆を大切に考え、面会や自宅への外出等を積極的に行っている ・職員とお墓参り等に行っている 管理者+ケアマネ(○) ・「入居申込み」の段階から「家族協力」についての「考え方説明」およびお願いをしている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	介護職員(△) ・コロナによる交流制限で、面会のみにとどまる事が多い 管理者+ケアマネ(○) ・ここ数年に引き続き、コロナ禍であってもただ「面会機会を奪わない」様に心がけている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・コロナが続く中、まだマスクは必要ですが、面会者が増えてきている 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	コロナが落ち着いたこともあり、家族との面会は自由度が増している。入居者の状況を考慮した上で、家族、友人がホームへ来訪し、リビングで茶話会のように気軽に話しを行っている。ユニット間の交流も行いながら、墓参りやドライブを兼ねた馴染みの場所へドライブに出掛ける等、馴染みの関係継続に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護職員(○) ・入居者間のトラブルがあった際は、「席替え」等を行い、トラブルを未然に防ぐように工夫している ・入居者が孤立する事がないように、声かけや傾聴に努めている 管理者+ケアマネ(○) ・常に、両ユニット入居者間の人間関係にも気を配り支援している	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・決まった入居者にしか声をかけない職員がいる 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護職員(?) 管理者+ケアマネ(○) ・サービス利用(契約)終了後も、地域の一員として、本人・家族の経過フォロー、相談や支援を行っている	介護職員1(○) 介護職員2(×) ・サービス利用(契約)終了すると、介護職員はそれで支援終了になる 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・管理者も「墓参り」「買い物外出」や「受診支援」を行い、その際に、各人の思いや希望を把握する様に声かけを行っている ・困難な場合には、家族や元の担当ケアマネ等に過去の様子を伺うようにしている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	島外への病院受診には、家族の負担を考慮し管理者が受診に同行しており、その際の車中で入居者の思いや意向を聞く機会が多い。職員は日々の生活の中で入居者の希望を把握し、介護計画見直し時に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・「各人の生活歴、馴染みの暮らし、生活環境、過去のサービス利用経過等」には重きを置き、入居後も新たな発見がないか気がけている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員(○) ・日々の状況を観察し、その都度共有している ・「どうすれば良いか?の対策」も意見を出し合い決めている 管理者+ケアマネ(○) ・入居者の変化については、些細な事についても、介護職員がよく報告してくれます	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員(○) ・毎月のユニット会議において話し合い意見やアイデアを出している 管理者+ケアマネ(○) ・「必要なケア」や「課題」については、把握した時点で必要であれば、会議を待たずに、タイムリーに実行や変更が行える体制をとっている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	入居時の担当ケアマネージャーより本人の情報を得て、初期の介護計画の短期目標を設定し、以降、全職員でモニタリングを行い、介護支援専門員である管理者が6カ月単位を基本とした介護計画を作成している。職員よりサービス内容変更に関する提案や、入居者状況の変化等が生じた場合は全職員で検討し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・日中の記録は「生活日誌」に、夜間の記録は「夜勤日誌」に個別に記録し、左記項目の通りに行う事ができている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・管理者は、本人、家族、職員からの意見やアイデアを、既存の考え方で潰すことが無いように気をつけている ・なるべく実現できるように、努力している	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護職員(△) 管理者+ケアマネ(△) ・コロナ禍でもあり、「認知症カフェ」等の福祉資源を含め、活用できないでいる	介護職員1, 2(△) 管理者+ケアマネ(△) ・(くじらユニットに同じ)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・本人、家族、医師、各病院の地域連携室と密に連絡を取り、専門科受診・島外受診を含め、必要な医療が受けられるように工夫している	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	ホームの協力医療機関は島内唯一の医療機関である平戸市立生月病院である。地域医療連携室を介し、本人の情報提供書による情報をホームで共有して、ホームの協力医療機関への変更を家族へ依頼している。専門医等、島外の医療機関を受診する場合は管理者が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・介護職員も、何かあれば主治医の病院へ相談の電話連絡を入れる様にしている ・また、定期受診付添い時、主治医に詳細な情報を提供する様にしている	介護職員1(△) ・主治医、病院看護師との連携はとれている 介護職員2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・各病院の地域連携室を中心に、病棟看護師等とも密に連絡を取り、左記の様に行っている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護職員(?) 管理者+ケアマネ(○) ・入居申込みの段階から、「施設対応能力」についての説明の一環として、重度化した場合や終末期の事についても家族と話をしている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ) ・(まんぼうユニットは、「終末期対応ケース」複数あり)	入居申込みの時点で嚥下困難な場合はホームでの支援が難しい事を家族へ伝えている。重度化した場合は再度家族へ確認し、家族がホームで医療的ケアを行わず看取り支援を要望する場合は家族の同意の下で医療と連携した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員(△) ・急変時、職員がパニックになる場合があり、落ち着いた初期対応ができる様、定期的な訓練が必要 管理者+ケアマネ(△) ・コロナ禍にて「消防署による訓練」や「定期的な訓練」ができていない	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・以前より身についたが、まだ経験不足知識不足を感じる 管理者+ケアマネ(△) ・(くじらユニットに同じ)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	介護職員(△) ・入居者と一緒に訓練機会がなく、災害が起こった時にスムーズな誘導ができるか不安 管理者+ケアマネ(△) ・コロナ禍にて「消防署による訓練」や「定期的な訓練」「地域訓練」ができていない	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・最低限度の訓練は行っているが、定期的な訓練が必要と思われる 管理者+ケアマネ(△) ・(くじらユニットに同じ)	避難訓練は昼間、夜間想定で年2回実施しているが、自然災害についての訓練は実施できていない。BCPは現在、作成中である。ホームが立地する区域は土石流の特別警戒区域の指定範囲にあり、防災訓練を本年11月に予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員(△) ・「命令口調」や「大声」での声かけがある ・接遇マナーを再確認し、丁寧な言葉かけが必要 管理者+ケアマネ(△) ・大体の職員はできているが、両ユニットともに、できない職員が数名いる	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・入居者目線での言葉かけを意識している 管理者+ケアマネ(△) ・(くじらユニットに同じ)	各ユニットで拘束・虐待ゼロ委員会の委員を選定し、毎月ユニット会議で話合っている。職員間で入居者の個人情報が必要になった場面や、入居者、家族とのプライバシーに関することを上げる場合は小声で行う等、配慮している。管理者は不適切な言動があったと気づいた場合は、適宜アドバイスを行い職員のスキル向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・「飲み物は、日頃から複数種類準備しておく」…等、職員が何でも画一的に提供する状況にならないように、生活における様々な「選択肢」の幅を維持するように工夫している	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・現在、ほぼすべての入居者が会話相談可能。介護職員が入居者1人1人と会話しながら支援を行っている	介護職員1(△) 介護職員2(△) ・「外に出たい」との訴えがあっても、職員1人の時は他の見守りができず対応できない 管理者+ケアマネ(△) ・入居者に「BPSDとしての興奮」等みられると、管理者もケア協力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護職員(○) ・入浴時の服の準備を、本人に行ってもらっている ・自分の好みの服を選択し、その人らしさが出せるように支援している 管理者+ケアマネ(○) ・入浴準備等の際、入居者と職員が「どの服にするか？」話し合っている姿をよく見かけます	介護職員1(○) 介護職員2(×) ・身だしなみはできているが「おしゃれ」はできていないと思う 管理者+ケアマネ(○) ・職員によりますが、年配の職員は「その人らしさ」を考えながら、着替えの服等を選んでいられる様です		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護職員(○) ・主に下膳(配膳カートを厨房まで運ぶ)や、食器拭き、布巾やエプロン干し、台拭き、床掃き等を手伝って貰っている 管理者+ケアマネ(○) ・仕事の分担を決めて、入居者と職員がいつも賑やかにやっている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・偏食については「代替」を提供している ・重度の入居者が多い為、食事の準備片付けは、職員が行っている 管理者+ケアマネ(○) ・重度入居者が多い為、準備片付けは職員が行っていますが、メニューやおやつを工夫している	職員が旬の食材を用いて、朝食、昼食、夕食を手作りしている。メニューは給食委員会を中心に検討し一覧表にしている。嗜好する飲食物は台所の目につく場所に貼り活用している。母体の漁協からは新鮮な魚の提供もあり提供している。行事食、病院受診後の外食、入居者の希望する食事への個別対応等取り組んでおり、入居者のペースに併せて入居者が楽しみながら食事が摂れるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護職員(○) ・食事、水分摂取量を記録管理している ・嘔吐しやすい方、少食な方には、最大6回の分食をして対応している 管理者+ケアマネ(○) ・准看護師の介護主任を中心に、工夫対応している	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・偏食のある入居者が多いです ・飲食嗜好については、介護職員も気づいた時に個別メモをとっている ・栄養バランス等については、知識のある管理者がOJTで職員を指導している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介護職員(○) ・食後は、毎回口腔ケアを行ってもらっている ・毎日夕食後、義歯洗浄剤にて清潔を保っている 管理者+ケアマネ(○) ・口腔状態、義歯等に歯科受診の必要が出た際には、すぐに歯科受診ができる体制をとっている	介護職員1, 2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護職員+管理者+ケアマネ(○) ・能力に合わせ、リハパン・パットを使い分けている ・尿意を示さなくても、時間を決めて声かけトイレ誘導を行っている ・夜間尿意があれば、トイレかトイレでの排泄介助を行い、できるだけオムツは使用しない ・便器(洋式)前に机を置き、前に転倒するのを防ぐ工夫をしている	介護職員1(△) ・重度の入居者が多い 介護職員2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(パット類の使い分け、声かけトイレ誘導、なるべくトイレかトイレでの排泄、等、くじらユニットに同じ)	日中はできる限りトイレでの排泄支援を心掛けている。心拍・血圧・体温等が一つになった排泄チェック表を活用し、定期的な声掛けを行っている。夜間帯は時間を決めることなく、個人の排泄パターンに併せ、状況に応じてポータブルトイレを使用している。パッド、オムツ類のサイズや使用量に関しその都度職員で話し合い、家族に了承を得て適切な使用に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職員(○) ・毎朝、コップ1杯の牛乳の飲用を行っています ・便秘時の下剤の指示を、表にまとめてどの職員でも同じケアができるようにしています 管理者+ケアマネ(○) ・食事、薬の管理等を通して介護職と連絡を取り、便秘への対応をしている	介護職員1, 2(○) ・下剤の指示は、表にまとめてどの職員でも同じケアができるようにしている 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ) ・牛乳を飲めない入居者が多い為、まんぼうユニットではヤクルトを活用		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護職員(○) ・毎回、色の違った入浴剤を使用し、入浴を楽しんでいる方もいます ・入浴に拒否があれば、対応職員を交代したり、時間をおいたりして試みているが、それでも拒否があれば無理には入れないようにして、その方達のペースに合わせるようにしている 管理者(△) ・勤務体制上、各ユニット1日おき	介護職員1(△) 介護職員2(△) ・入浴の曜日が決まっている 管理者(△) ・(くじらユニットに同じ)	浴室は一般浴と機械浴が設置されている。入浴は曜日を定め各ユニットの浴室を交互に使用している。但し、入浴希望や拒否があった場合は柔軟に入浴日を変更する対応も行われている。浴槽は浴室中央に配置しており、両方向から介助が可能である。脱衣所にはエアコンを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護職員(○) ・日中の休息は、自由に行ってもらっている。フロアベッドで横になったり、居室で横になったり ・適度な睡眠時間となるように、夕食後はテレビを観たりして、皆で団らの時間を設けている 管理者+ケアマネ(○) ・日課にこだわらない様になっている	介護職員1、2(○) ・居室内の温度や湿度を、数字で確認しながら、体調を崩さないように支援している 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員(○) ・入居者の能力により、服薬介助の方法を段階的に変えている(本人が薬袋を切って服薬、手の平にのせる、口に入れる…等) ・薬の「処方目的、副作用、用法、用量等、情報の共有に努めている 管理者+ケアマネ(○) ・把握できている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・全員分の薬は把握できていない(薬情報等を見れば分かる) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護職員(○) ・朝10時、15時のテレビ体操、読書や季節の作品作り(折り紙・塗り絵等)等、ここに合った支援を行い、メリハリのある生活を心がけている 管理者+ケアマネ(○) ・元在宅ケアマネや家族から得られた生活歴や趣味の情報を、介護職員にその都度伝えるようにしている	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・誕生日のお祝、気分転換ドライブ等を行っている 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護職員(○) ・入居者各個人の希望に沿って、散歩やドライブ等、支援を行っている ・家族や本人の希望により、外出や外泊等もできるように支援している ・地域のイベントにも、可能な限り参加している 管理者+ケアマネ(○) ・お墓参りや買物等、勤務体制上介護職員ができない部分をカバーしている	介護職員1、2(△) ・「本人の希望に沿った外出」はあまりできていないが、気分転換のドライブは時々行っている 管理者+ケアマネ(△) ・(くじらユニットに同じ)	産業祭(くじら祭り)等、地域の様々な行事や催しの見物や、買物を兼ねた外出等、支援している。入居者の希望に応じ家族の協力の下で島外の家族宅へ外泊することもある。病院受診後の外食や、好天時には外のウッドデッキで日光浴等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護職員(○) ・入居者各個人の「金銭管理能力」により(可能な入居者の方については)お小遣い程度の現金を手持ちできる 管理者+ケアマネ(○) ・「金銭管理能力」について、介護職員、本人、家族と話し合い、可能であれば入居者が現金を所持できるようにしている	介護職員1(×) ・現金を手持ちできる入居者がいない 介護職員2(△) ・お金は事務所で管理している 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・認知症によるトラブルが発生するため携帯電話の所持は行っていないが、入居者も職員に声をかければ、自由に施設の電話を使用する事ができる ・手紙のやり取り支援も行っている	介護職員1(△) 介護職員2(×) ・できていない 管理者+ケアマネ(△) ・(くじらユニットに同じ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護職員(○) ・季節の物を飾ったり、入居者の作品を飾ったりして「季節感」や「達成感」を感じる事ができるように工夫している ・環境整備も係を決め、定期的に行っている 管理者+ケアマネ(○) ・既存の考えにとらわれず、入居者の好む場所を確保する様にしている	介護職員1、2(○) 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)	ホームの清掃は担当制ではなく職員の自主性に任せ、心配り、気配りの醸成、協力体制の重要性を認識することを目指すと共に支援に必要なスキルアップに繋げ、居心地の良い空間づくりを全職員で取り組んでいる。感染症対策の為、床、手摺等は次亜塩素酸水を使用し清掃している。空気清浄機、定期的なエアコンフィルターの清掃、熱帯魚が泳ぐ水槽の設置等、快適な共用空間を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: くじら)	実践状況(ユニット名: まんぼう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	介護職員(○) ・共用空間には、テレビが見やすい場所にソファを設置し、全員が好きな場所に自由に座ってゆっくりできる場所を整えている 管理者+ケアマネ(○) ・介護職員が、気づいた時毎に、家具等の配置を工夫している。 ・「隣ユニット訪問」も活用している	介護職員1(○) 介護職員2(×) ・できていない 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護職員(○) 管理者+ケアマネ(○) ・介護職員が本人や家族に、よく問い合わせて工夫している	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・居室内の壁に、家族写真を飾るように気がけている 管理者+ケアマネ(△) ・コロナの影響もあるが、家族が遠方県外在住の方が多く、思い通りに工夫できていない	居室には家族写真を飾り、本人の希望に応じてテレビやその他の馴染みの品等の持込みができる。携帯電話の使用も可能であるが、本人の状況も踏まえて家族と検討している。各室に湿温計を置き、職員が目視で確認して温度調整し、換気も定期的に行われて過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護職員(○) ・居室内での転倒がないように、入居者各個人に合ったベッド配置を工夫している 管理者+ケアマネ(○) ・入居者の認知症程度を確認しながら、「張り紙」や声かけ等を工夫活用している	介護職員1(○) 介護職員2(△) ・自身の居室が分からなくなる入居者には、居室入口に(名札とは別に)「大きく書いた名前をつける」等の工夫をしている 管理者+ケアマネ(○) ・(くじらユニットに同じ)		